

障害者の自立支援について

障害者が安心して働ける社会環境を！

問 御前崎市には草笛の会・はまおか作業場と心身障害者小規模授産所・つばぎの家の二つの施設があります。つばぎの家は現在20歳から73歳までの14名の入所者がおります。施設は御前崎町当時に古い建物を改築して造ったもので、その後、増改築を繰り返した建物で、老朽化も進んでおります。また手狭になっていくとも聞いております。そしてバリアフリーでもなく障害者施設としては大変不便が生じています。今後は障害者もつと働ける社会として、自立を支援する施設や安心して働ける社会環境を整備していく必要があると思います。つばぎの家の建設について市長の考えをお聞かせします。

答 高齡化が進み通所者は親との共同生活ができなくなってきた人もいます。そんな現状を考えますと通所者の地域での生活全般を支えてやらなければなりません。そのためには生活寮の必要性も考えなければならぬと思います。市長の考えは

問 建設については早期に対応するという答弁でしたが再度明確な答弁を。また生活寮の必要性についての答弁を

答 19年度ごろ新築を！

建設は19年度頃議会の皆様方のご理解をいただきながら新築できればと考えています。生活寮につきましては必要性を十分理解しておりますので早々に検討させていただきます。



増田 雅伸

資源ごみの有効活用について

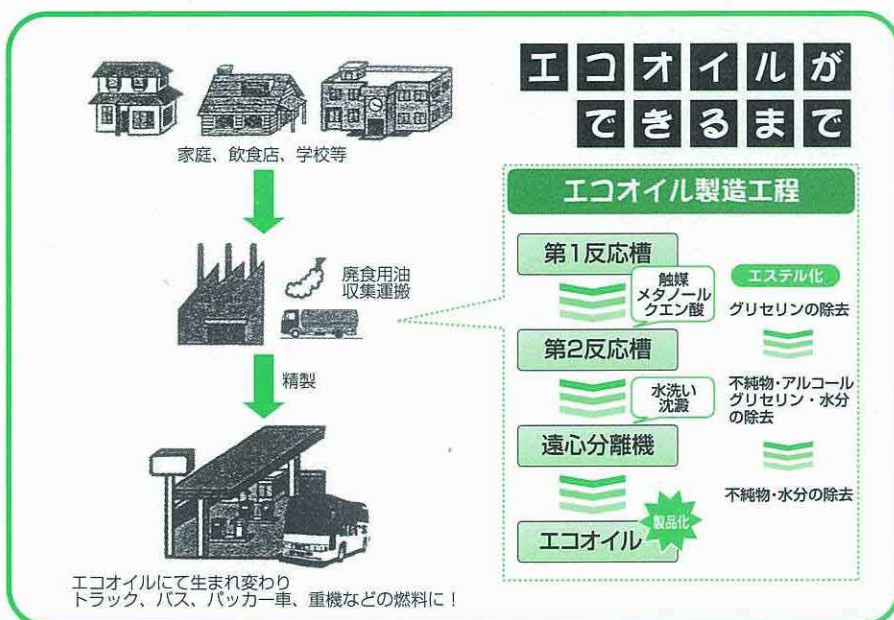
食用廃油を資源として活用
ごみの分別細分化・減量を！

問 家庭から出る廃食用油を使い、軽油代替燃料として活用するシステムを取り入れる考えは

答 使用済み食用油の回収には、市民の協力が不可欠であります。今後先進地の情勢を確認する中で、検討していく問題であると考えています。

問 資源ごみの回収を細分別化し、市独自でリサイクルできるごみを回収していく考えは

答 環境保全センターがリサイクル法に基づく分別収集を、又PTAや保護者会等の集団回収など市民の協力を得て分別減量化、リサイクル化に努めています。ごみ収集業務は牧之原市、御前崎市で構成する組合である環境保全センターで行ってお



り、さらに市で回収することは現在考えておりません。両市の担当課長でごみ減量化対策について検討しています。



岩瀬 初代